

2010年9月2日

西田幸夫

イスタンブル火災被害出張報告

目的 江戸・東京とイスタンブルの火災被害比較のための資料収集および現地調査

出張者 東京理科大学 辻本 誠教授、西田 幸夫^{プロジェクト} 研究員

東海大学海洋学部 アイダン オメル教授

期間 2010年8月24日～30日

概要

8月25日（水）

10～11時半 イスタンブル工科大学機械学部

アブドラヒム・クリュッチュ教授（専門：火災工学）を訪問。

過去の火災事例をまとめた小冊子をいただく。消防隊の成立がオスマントルコ朝の親衛隊であり、消防隊として独立したのは1714年であること、現イスタンブル大学内のベイゼット塔（1828年、高さ85m）が火の見櫓であり、1746年木造で設置されたが過去に何度かの火災を経て、組積造で残っていること、火災の多くは北風により、金角湾側からマルマラ海側へ延焼したこと、などを情報として得た。



クリュッチュ教授研究室



ベイゼット塔

14時20分～15時30分 イスタンブル工科大学建築学部

デニス・マズルム准教授（専門：建築修復学）を訪問

イスタンブルを襲った1766年の地震ではリスボン地震（1755年約6万人が死亡）とは違って火事が起こらなかった。理由は発災が5月と考えられる。重要な文献を紹介してもらい、幾つかはコピーをもらうこととした。（27日にアイダン教授が回収）

大火は18世紀ではアラーの思し召しとされていたが、19世紀に入り、バシリカには貯水槽が、また防火壁が義務付けられたこと、の説明を受けた。写真が残されている1911年の火災ではアヤソフィア周辺の焼失状況等が記録されている。

16時半—17時半

イスタンブル大学内のベイゼット塔を訪問。内部に入る申し込みを大学へしたのち、塔の周辺調査。(申し込みに対して大学は8/29 現在ノーコメント)

18時—

イエニカプ駅周辺の木造市街地を撮影した。



防火壁を介して連坦している建物



道路幅員 5m の街路に面して建つ木造建築

8月26日(木)

10時20分—13時 イスタンブル工科大学土木学部

ゼキ・アスキュール教授(専門:耐震工学、日本土木学会トルコ分会長)訪問「オスマンリ・バシケンテ・イスタンブル」の本の11章(アブドラヒム教授が文献として抜粋したもの)の翻訳が必要ということになり、来年10月から日本に留学するムゲ・クレリ(Muge Kuleli mkuleli@gmail.com)さんに500ドルでお願いすることとした。昼食を大学教員食堂でごちそうになった。

13時—14時 イスタンブル工科大学鉱山学部

エルドガン・ユゼール教授(専門:地質学)

鉱山の火災について意見交換した。

14時30分—15時

ピエール・ロティの丘から調査対象の全景を撮影した。



16時ー

アジア側ウシュクダルで木造密集地域を調査した。



レンガで造られている防火壁



建設中の木造建物

8月25日（金）

地下鉄建設等を手掛ける YAPI 本部のエルシン・アリオギュル社長他と大深度地下空間における防災について意見交換を行った。



YAPI 事務所



建設した地下鉄

8月26日（土）～27日（日）

アヤソフィア周辺木造市街地、ガラダ塔周辺を調査した。



アヤソフィア付近の火災にあった木造建物



老朽化した木造建物群

以 上